

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第 13 号

チョウ目害虫の防除の徹底について

例年9月から10月は、オオタバコガやハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺成虫数が、年間で最も多くなる時期です。本年は、10月上旬が高温傾向だったため、例年以上に誘殺成虫数の増加が顕著な地域が見られました。成虫が多いと産卵数、幼虫の発生数も多くなるので、定植直後のイチゴや冬春キャベツでの被害が例年より多いようです。

向こう1カ月の気象予報でも、平年に比べて気温が高いとされており、今後アブラナ科野菜の定植が進むにつれ、コナガやアオムシについても多発が懸念されます。

9～11月は、冬春野菜におけるチョウ目害虫の重要な防除時期です。本年は特に防除を徹底しましょう。

1 対象作物名：野菜類

2 病虫害名：チョウ目害虫

3 発生状況

8月下旬頃からオオタバコガやハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺成虫数が増加しており、特にオオタバコガのフェロモントラップ調査において、10月1～2半旬の誘殺成虫数が、平年、前年より非常に多い調査地点が見られた(図1)。また、ハスモンヨトウについても、9月6半旬～10月1半旬の誘殺成虫数が、平年、前年より多い地点が見られた(図2)。

4 防除上注意すべき事項

(1) オオタバコガ

ア 薬剤が効きやすい若齢期の幼虫を対象に薬剤防除を行うことが望ましいが、今の時期は齢期がそろっていないので、1週間程度の間隔で複数回防除を行う。

イ 多発すると植物体内に食入して防除が困難になるので、ほ場の発生状況に注意し、発生初期の防除に努める。

(2) ハスモンヨトウ

ア 薬剤が効きやすい若齢期の幼虫を対象に薬剤防除を行うことが望ましいが、今の時期は齢期がそろっていないので、1週間程度の間隔で複数回防除を行う。

イ 若齢幼虫は群生しているため、かすり状の葉は、見つけ次第除去、処分する。

(3) コナガ

ア 薬剤が効きやすい若齢期の幼虫を対象に薬剤防除を行うことが望ましいが、今の時期は齢期が

そろっていないので、1週間程度の間隔で複数回防除を行う。

イ 多発すると結球内部に食入し、防除が困難になるので、ほ場の発生状況に注意し、発生初期の防除に努める。

ウ ジアミド系薬剤に対しては感受性が低下しているので、他の系統の薬剤を用いる。なお、抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

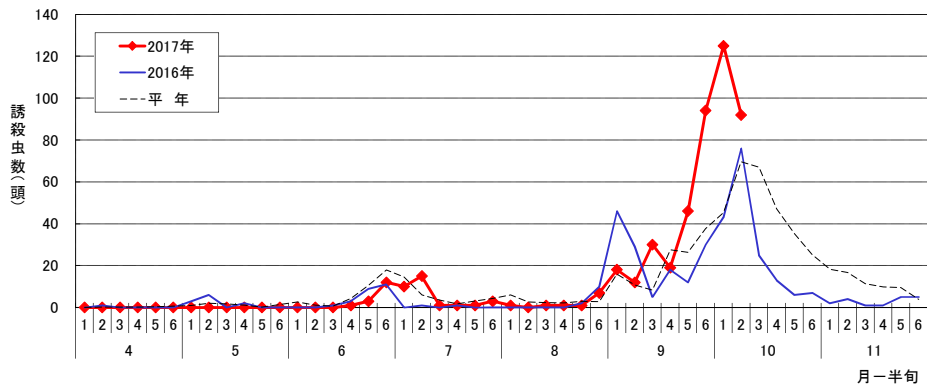
エ ほ場への侵入源となるイヌガラシ、ナズナ等のアブラナ科雑草の管理を徹底する。

(4) アオムシ

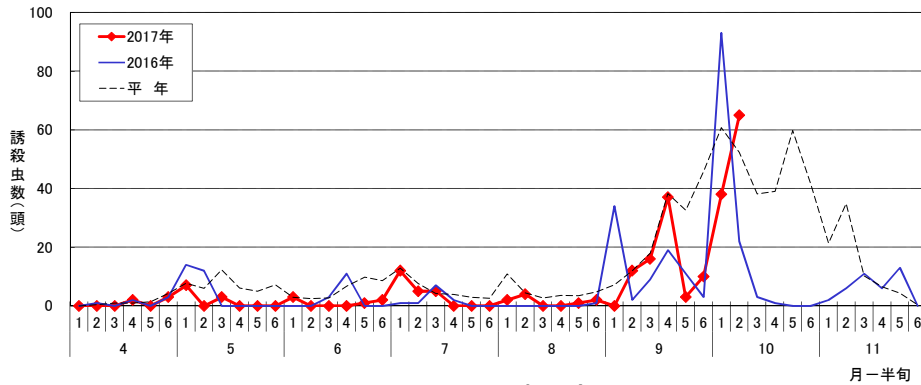
ア 薬剤が効きやすい若齢期の幼虫を対象に薬剤防除を行うことが望ましいが、今の時期は齢期がそろっていないので、1週間程度の間隔で複数回防除を行う。

イ 多発すると防除が困難になるので、ほ場の発生状況に注意し、発生初期の防除に努める。

ウ ほ場への侵入源となるイヌガラシ、ナズナ等のアブラナ科雑草の管理を徹底する。

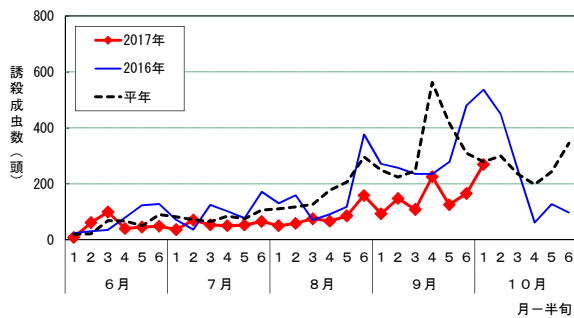


福岡市

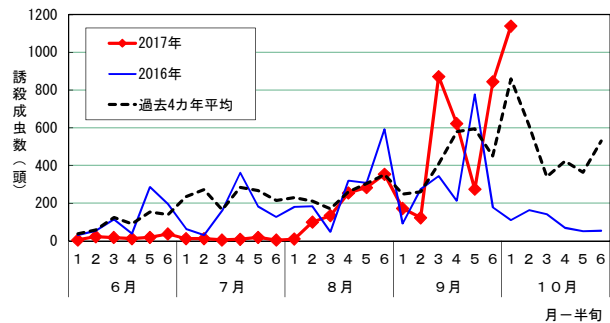


みやま市

図1 フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺成虫数



筑紫野市



筑後市

図2 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺成虫数



写真1 オオタバコガの老齢幼虫



写真2 ハスモンヨトウの卵塊

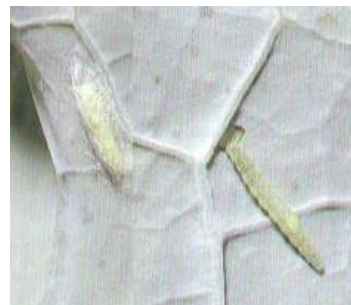


写真3 コナガの蛹（左）と幼虫（右）

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

